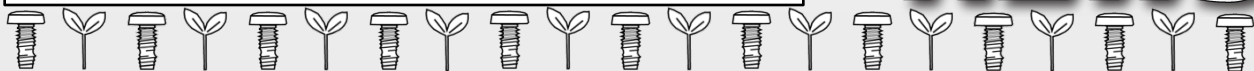


しんかい6500: 大西洋の深海
で世界最深の鯨骨生物群集を
発見

深海に沈んだ生物のなきがらが、
生命のゆりかごになる

写真はイメージです ©sxc

2016年2月24日、国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)から、有人潜水調査船「しんかい6500」によるブラジル沖サンパウロ海嶺の水深4,204mの調査結果が発表されました。しんかいが見つけたのは、

深海に沈むクジラの骨。そして、そこに巣食う生き物の群れでした。これらは、太陽の光の得られない真っ暗な深海で、クジラの死によってもたらされた巨大な有機物により集まっていたのです。太陽のエネルギーにより成り立っている生態系は「光合成生態系」と呼ばれますが、深海にはこれとは全く異なる生態系が存在しています。それは地球内部から湧き上がる熱水域や湧水域にある、硫化水素、メタン、水素などをエネルギー源として有機物をつくりだす化学合成微生物が生産者として働く**化学合成生態系**です。クジラの骨に集まっていたのはこの「化学合成生態系」に属する生き物たちで、遺骸が分解され、発生した硫化水素をエサとして生きていました。このような生態系の発見は8例目、これまでで**最も深い海域での発見**となりました。さらに、発見された41種の生き物は形態レベルの検討でそのほとんどが**新種**であると推定されています。そしてこの発見は、今も残される大きな謎、「遠く離れた深海の熱水や湧水の生物群の構成が、なぜ酷似しているのか？」を解き明かす鍵となるかもしれません。1989年、ハワイ大学のクレイグ・スミス博士が提唱した「飛び石仮説」。それは熱水源同士の生物をつなぐのは深海に沈むクジラの骨であるという仮説です。今回この仮説を強く支持する結果となりました。

海の底から見上げると、あらゆる生き物の死骸がゆらゆらと落ちてくる。これらが深海での生き物を育てているんですね。

参考・詳細 国立研究開発法人海洋研究開発機構プレスリリース
http://www.jamstec.go.jp/j/about/press_release/20160224_2/

記者: 吉田拓実



JAMSTECでは
これから人為的にクジラ
の骨を深海に設置し、本当に
「飛び石仮説」のような現象が
起きるのか実験することを発表して
います。結果が楽しみです！

研究者と直接相談できる場をつくりました！

リバネススタッフと交流できるプラットフォームです。サイエンスブリッジニュースのライター陣と、直接サイエンスを語り合ったり、課題研究の相談したりできますので気軽に参加下さい！

学校を超えて学び合える10代限定SNS
『THINKERS』
リバネスフォーラム
<https://goo.gl/IQERh>



Facebookグループ
リバネス
ユニバーシティ
<https://goo.gl/3YqAp8>



発行：教育応援プロジェクト事務局(株式会社リバネス)

2月29日は閏日(うるう日)

閏日とは、太陽暦において、暦と季節(太陽の運行)のずれを補正する暦日